

アイデア紹介

重症心身障害児の教育効果をあげるための創作教材の作成と活用について

県立須賀川養護学校 重心 訪問部

1. はじめに

私たちの重心訪問部は重症心身障害児を対象とした学部である。児童生徒は知的能力、運動能力などの発達段階にも個人差が大きく授業は養護訓練を中心とした形態をとっている。養護訓練はいわば学習を可能とする基礎的・基本的な能力や態度を培うものである。心身が重度で重複障害をもつ子どもたちにとっては多くの時間と手厚い指導が求められなければならない領域であるし、その中で子供たちの能力を最大限に発揮させるためには、その子にあった効果的な教材が必ず必要になってくる。

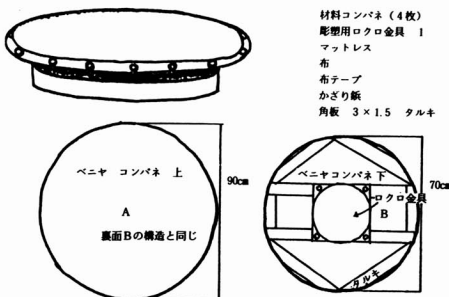
私たちは個々の児童生徒の実態を見きわめそれぞれの子どもにあった創作教材のアイデアを出しあい、教材製作とその活用を図ってきた。その創作教材のいくつかを紹介し参考に供したい。

2. 教材名 円形回転盤

- ①分野 平衡感覚及び上肢、下肢の訓練
- ②ねらい

腹臥位、仰臥位、座位でのせ左右の水平回転により全身の基礎的運動機能開発に使用し、更に腹臥位で上肢を使い自力で回転させ、又、両足で回り回転させ下肢の訓練にも役立たせる。

③設計の概要



④指導方法と効果

回転盤上で回転させることにより平衡感覚を

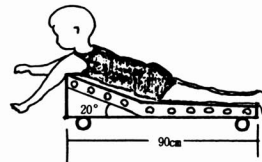
刺激し感覚意識を高めるようにする。自力で上肢を使い腹臥位で自分の体を回し、体を支えることにより上肢の訓練をさせる。又、両足を使い仰臥位で回転盤を回し下肢の訓練と体のバランスがとれるよう運動させる。継続指導によりねらいを達成させ、経験と感覚意識を高めることができる。

3. 教材名 傾斜つきフロアカー

- ①分野 上肢、下肢の訓練
- ②ねらい

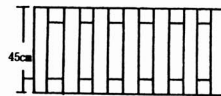
傾斜つきフロアカーで特に腹ばいで遊ぶ時に両手を伸ばすことができ、又、自在車の活用で自力で移動を可能にさせ仰臥位で足をつかい移動させ上肢・下肢の訓練に役立たせ、あわせて回転させたりすることにより運動機能の開発に役立たせる。

③設計の概要



材料 3×1.5 タルネ
ベニヤコンパネ
マットレス
布
布テープ
自在車 4ヶ

(傾斜角度自在考案中)



④指導方法・効果

傾斜つきフロアカーは遊ぶ時に腹ばいで使用させる。積木あそび、型はめ、絵本読みなどいろいろな遊びや学習が比較的可能な子どもで腹ばいで両手の使用ができる子を対象にする。

更に上肢をつかい自力での移動やペグボードなどができ、仰臥位で首をおこす子どもの姿勢を楽にさせ視野を広げることができる。このように上肢、下肢の訓練と腹ばいで両手の動きを容易にさせると共に上肢・下肢を使っている移動の際に動く目的に向っての移動を容易にさせることができる。

4. 教材名 クローリングタイヤ

- ①分野 感覚運動を豊かに獲得させる。